

学校の詩

うた



学校の教育目標

自律貢献

文責：教頭 藤田天平

◆筑紫区新人大会が終わりました。

10月2日(土)から始まりました筑紫区新人大会が終了しました。今大会は競技ごとに感染症対策を実施するとともに、保護者の皆様にも参加人数制限等でご協力をいただきながらの開催となりました。おかげさまで大会中は大きな事故等もなく無事に終了することができました。あらためてお礼申し上げます。

さて、生徒たちは少ない練習期間と試合経験で大会に臨みましたので、きっと大変な緊張感の中で試合を行ったのではないかと思います。結果は満足のいくものにはならなかったかも知れませんが、部活動は勝つことだけが目的ではありません。昨年10月発行の「学校の詩」で藤井校長が部活動をおして身に付けてほしいことを紹介しています。



私は、バレー部の子ども達には、「まずは、授業や日常生活を大切にする」「挨拶・掃除・整理整頓・道具を大切に」「目配り・気配り・心配り」「感謝の心」「きつても諦めない気持ち」などを常に言い続けました。

「バレーで日本一になれないかもしれないけれど、例えば挨拶の日本一素晴らしいチームにはなれる！それこそが、将来生きていく上でとても大切になる。日常の当たり前を大切にする、そして人間力を高めることが技術の向上にも必ずつながる」と話していました。

校長コラム「ひたむきに」より 一部抜粋

これからも制限された中での部活動になりますが、各部の目標と生徒一人ひとりが立てた目標を達成できるように精一杯取り組んでほしいと思っています。保護者の皆様には練習試合の送迎等でたくさんのご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

◆第39回文化発表会 「はばたく ～『想い』は自粛しない～」

10月22日(金)に大野城まどかびあ大ホールで第39回文化発表会を開催しました。当日は、英語スピーチや人権作文発表、被災地派遣報告、吹奏楽部演奏DVD鑑賞等を行い、どの発表、報告も、この日に向けてしっかりと準備をしてきたことが分かる大変立派なステージでした。発表を聞いていた生徒たちも真剣なまなざしで見つめ、その姿もとても素晴らしいものでした。

また、落語家の「橘家 文太」さんに落語を演じていただき、日本の伝統文化の一端を学ぶことができました。3名の生徒と大物ゲスト「とんこつ亭吞乃助」もステージに上がり、落語の「そば芸」に挑戦しました。日頃、触れる機会が少ない落語ですが、緊張しながら演じる生徒たちの姿に会場は盛大な拍手と笑いに包まれました。

コロナ禍で合唱コンクールや吹奏楽部のステージ発表ができず、残念ではありましたが、「今できることは何か」を考え、今回の文化発表会を開催することができました。生徒たちの素敵な発表のおかげで、まどかびあ大ホールには文化の香りと優しさがあふれました。

なお、詳細につきましては、御陵中HP「校長のひとりごと」をご覧ください。



「虫の目 鳥の目 魚の目」

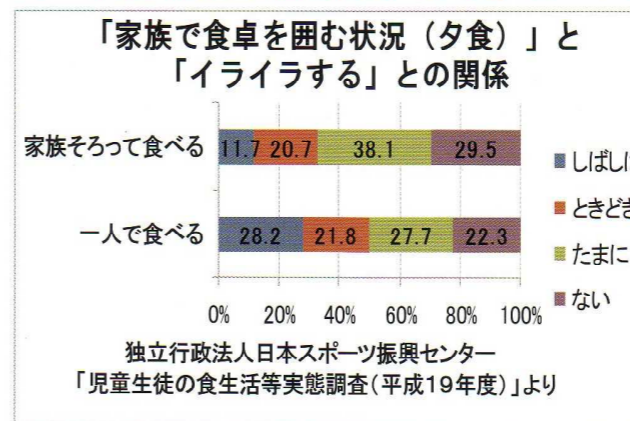
【教頭コラム】

「食育はなぜ必要？」

食は、子どもたちが健やかに成長していく上で欠かすことのできないものです。

現在、食べ物の種類が豊富になり、いつでも食べたいものが食べられる世の中になりましたが、その反面、「食べ物を大切に作る心」や「食べることのありがたさ」などの思いが薄れていることが指摘されています。また、近年、社会の変化に伴って生活も多様化し、孤食や欠食、外食の機会の増加、肉類や脂質を多くとる食の洋風化などが、偏った栄養摂取や不規則な食事などを助長しています。このようなことが原因で生活習慣病の予備軍が低年齢層にまで広がっていることも問題となっています。

◆ 家族で食卓を囲む状況(夕食)と「イライラする」との関係(図)



【教育力向上福岡県民運動(現在は終了しています) ワンポイント・リーフレット「食育」より】

日本では2005年に食育基本法を制定し、学校教育でも「食育」の取組を推進するよう言われています。この「食育」とは、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置づけられ、単なる料理教育ではなく、食に対する心構えや栄養学、伝統的な食文化についての総合的な教育のことを指しています。

毎日口にする食べ物が、私たちの体をつくり、成長させ、病気に抵抗する力を生み出します。それだけに、「考えて食べる」力が必要となってきます。「食育」の原点は家庭にあると言われていますが、学校教育の中でも食育を推進していくことは重要なことだと考えています。

さて、家庭での食卓において近年問題とされているのが子どもたちの「こ食」です。このような食事を続けると「キレる子どもが増える」といわれています。これらは、心の働きに作用する要素があることが、科学的にも証明されています。

- 「こ食」の傾向
- ・「孤食」一人で食べる
 - ・「個食」自分の好きなものを各々が食べる
 - ・「固食」自分の好きな、固定したメニューしか食べない
 - ・「小食」食べる量が少ない
 - ・「粉食」パンやパスタなど粉を使った主食を好む

我が家では新型コロナウイルス発生以降、外食の機会がなくなり、代わりに家族全員で食事をする日が大幅に増えました。それぞれが一日にあったことを話したり、好きなアーティストの話をしたり、テレビの話題で盛り上がったりと、なかなか楽しい時間になっています。ある意味、コロナのおかげで「食育」の大切さを見直すいい機会になったのではないかと考えています。

学校では、緊急事態宣言解除となった現在でも、食事中は全員前を向いて食べる「黙食」を継続しています。それでも子どもたちは、みんなで食事をする楽しさを感じていると思います。

ご家庭におかれましても、「食育」の意義をご理解いただき、可能な限り「こ食」とならないようご協力をお願いいたします。

